

新生児科

統括部長 岩松 利至

1 部門目標

県内千葉保健医療圏に位置する地域周産期母子医療センターとして
新生児患者の救急医療に貢献する。

院外からの入院依頼症例の収容不能率を 10%以下に抑える。

2 業務体制・スタッフ

長きにわたり常勤医師およびその後、非常勤医師として勤務された今井郁子医師は退職しました。常勤医師は岩松利至、鈴木康浩、大橋美香、石黒利佳、近藤丈太、高橋将也の計 6 名で、昨年度と変わりありませんでした。臨床心理士は藤嶋加奈、本田淳子（いずれも非常勤）および岩田倫佳（常勤）の計 3 名体制が維持されました。専攻医では、東京女子医大本院より平石千尋が、院内小児科からは田中克樹、武口航、宮本孝則の計 3 名が、院外から宮岡慎一が研修を行いました。また、院内小児科の吉野忠恕が主に夜勤帯の診療に協力しました。

3 業務実績

1) 入院数および成熟児重症例の増加

2024 年 1 月～12 月の入院数は 327 名であり、本年も 300 名を維持いたしました。うち院内出生は 213 名で全体の 65.1% であり、ほぼ例年通りでした。出生体重別では、1000g 未満が 12 名で前年の 15 名から 3 名減少し、1000～1499g は 24 名でほぼ例年並みでした。死亡例は 2 名でした。気管内挿管での人工呼吸管理症例は 63 名で比較的多く、持続陽圧呼吸管理症例は 132 名であり、6 年連続で 100 名を上回りました。また 2021 年度より小児外科に光永哲也医師が着任したのに伴い、緊急症例への対応も含めて、新生児外科症例の手術もさらに少しづつ積み重ねております。また、東京女子医科大学附属足立医療センター新生児科長谷川久弥教授の往診による気管支鏡検査が行われ、新生児期発症の気道病変の管理向上に努めました。

2) 院外からの新生児入院依頼の 90.3% に対応

当科は例年入院のおよそ 70% を院内出生児が占めています。院内出生で入院を要する患児を他院へ搬送することはできませんので、その時々のベッド状況においてはどうしても院外からの入院依頼に対応ができない場合があります。2024 年も院内出生児の入院は 213 名で 65.1% と例年通りでした。院外からの入院依頼は 114 件でありそのうちの 103 件に対応できたため対応率は 90.3% であり、前年と同様でした。

院外からの入院依頼数が 125 件と昨年の 103 件よりはやや増加したものの、例年と比較すると

入院依頼数は減少しており、千葉市近隣での出生数の減少に因るものと考えます。昨今の日本での出生数の減少傾向を考えると、当科への院外からの入院依頼数もこの程度で横ばいで経過することも想定され、そうであるならば収容不能率を10%程度に抑えていくことが可能と考えます。

2024年度 入院状況

作成： 2025/5/1

1) 総入院数 327 名 (前年比 102.8%)

*院内 213 名 (前年比 98.5%)

出生体重	入院数	死亡数
~999g	12	1
1000~1499g	24	0
1500~2499g	135	1
2500g~	156	0
合計	327	2

呼吸管理

	使用人數	使用日数	平均/日数	使用割合
人工呼吸器管理 (IMV)	63	589	9.3日* ①</td <td>19.3%②</td>	19.3%②
CPAP,DPAP	132	1563	11.8日* ①</td <td>40.4%②</td>	40.4%②
サーファクタント	45			13.8%②

*①(日数/使用人數) *②(使用人數/総入院数)

在胎	入院数	死亡数
22~24週	2	0
25~27週	7	1
28~32週	38	0
33~36週	114	1
37週~	164	0
不明(未受診)	2	0
合計	327	2

2) 入院依頼(院外より) 125 件 (前年比 111.5%)

①新生児科入院 114 件 91.2% (入院/入院依頼)

救急車	109	*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って救急車にて当NICUに入院した症例
自家用車	0	*出産施設の医師または看護師助産師が付き添って自家用車にて当NICUに入院した症例
新生児搬送(お迎え)	5	*出産施設ですでに出生している至難な児を当院新生児医師と看護師が救急車で迎えに行きNICUに搬送した症例
分娩立会 + 搬送	0	*新生児医師と看護師が救急車で出産施設に出向き、分娩に立ち会ったうえでNICUに搬送した症例
三角搬送	0	*医師が救急車等で依頼元医療施設へ行き、新生児と同乗してほかの医療施設へ搬送した症例
合計	114	

②受入不可 他院へ 11 件 (前年比 1.1%) 4.8% (当院満床/入院依頼) 0.0% (満床以外不可理由/入院依頼)

満床	6
入院必要性近い病院へ	1
小児外科対応	1
脳外科の必要性	1
ほか対応中	2

4 1年間の総括

- 新生児科の入院数は本年も有意な増減なく例年通りでした。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことに伴い、親御さんの面会に関して、徐々に緩和されてきました。親子関係を育むという当科の特徴を鑑みて、今後も臨機応変な対応を行うように努めてまいります。
- 本年度も残念ながらスタッフ数の増員を図ることは出来できず、6名のままでした。当科のNICU病床数が21床であることを考えると、厳しい診療体制が続いております。
- 本年度も院外からの依頼の90.3%に対応することができました。
- 2021年度の当院小児外科への小児外科専門医の着任に伴い、少しずつ症例を積み重ねることができ、本年度も緊急症例への対応が可能でした。

5 今後の目標

今後も院外からの入院依頼症例の収納不能率を10%未満に抑える目標が継続できるよう、医師の確保・育成に力を注ぎたいと考えています。